

補遺A 推薦図書——覚醒に役立つもの

この補遺では、グルジェフの観念に関する比較的役に立つ図書、ならびに本書のテーマを補足・拡充する私自身のより一般的な著作を若干紹介しておきたい。これらは利用しうるものの中から選ばれたごくわずかにすぎない。もしあなたがこの種の題材への強い関心を持ち続けていれば、読み進めていくうちにもっと多くの文献が見つかるだろう。

しかしながら、読書それ自体は、あなた自身を理解し、覚醒し始めていくプロセスのごく小さな部分にすぎないということを再度強調しておきたい。なんらかの知的枠組みを持つことは助けになるが、しかしそれは、その知的枠組みがより深い体験的データを取り扱うための暫定的な道具であるかぎりでの話である。地図はある土地への有用な案内にはなりうるが、しかし土地それ自体ではない。事実、あなたが土地からはるか遠く離れているときに良い地図を持つことは危険である。なぜなら、明瞭な地図にたやすく魅せられてしまい、自分はそこを熟知していると思い込んでしまうからである。

また、グルジェフ・ワークは主として師弟間の直接的接触によって伝授されることを目論まれており、したがって書物はしばしば故意に不完全にされているということをお忘れはならない。

単に本書中のさまざまな観念が明瞭または賢明または興味をそそるように思われるからといって、あるいはそれらが意識に関する権威ということになっている人々からのものだからといって、それら

を受け入れるべきではない、と私は何度か強調しておいた。それらをあなた自身で試し、必要なら修正し、そしてあなたの体験でうまく働くものだけを受け入れることである。その時でさえ、そのような受け入れを暫定的なものとしておくこと。もしあなたのさらなる体験がそれらの観念とうまく合わなければ、それらは改められる必要があるかもしれない。どんな観念であれ、もし自分がそれを激しく弁護していることにあなたが気づいたら、特に要注意である。そのような行動は、往々にして、より深いレベルではそれについて少しも確信が持たず、そしてそのことをはっきり見るのを恐れていることを示しているからである。

この同じ忠告は、以下に挙げられた全ての図書に当てはまる。

グルジェフ・ワークに関する著作

われわれのほとんどにとって、グルジェフの観念と実践に関する本のほうが、グルジェフ自身の書いたものより手始めとしては取っ付きやすいであろう。しかしながら、この範疇に属するさまざまな本がどこまで本物で有用かに関して、グルジェフの観念を信奉する人々の間で意見が大きく異なる。何人かは、グルジェフの許で直接学んだことがあることが正確な本を書くための前提条件だという判断基準を用い、後から出た本をそのような直弟子およびグルジェフ自身の著作との整合性によって判断する。これはなかなか道理にならなっている。他の何人かは、そのような態度は独断主義的になる傾向があり、生きた教えであるべきものを化石化してしまう「イデオロギー的純粋性」を維持しようとする企てだと感じている。これもまた一理ある。

書物の選定にあたり私は、(私およびグルジェフを含む)どんな人によるどんな本も知恵と誤謬の混合物であろうと想定しており、その識別は読者にかかっている。私が以下に挙げる本はそのような混合物であるが、しかしそれらは誤謬よりもはるかに多くの知恵を蔵していると私は信じる。私にはまた、グルジェフの宇宙論よりも心理学のほうに焦点を当てた本にやや偏る傾向がある。前者より後者のほうが私にはより容易に理解し、評価できるからである。ここに挙げたものは私にとって有用だったものであり、で、読者にも役立つことを願っている。いずれも本書を執筆した時点での最新版である。

P・D・ウスペンスキー著「奇蹟を求めて——知られざる教えの断片 *In Search of the Miraculous: Fragments of an Unknown Teaching*」(New York: Harcourt Brace Jovanovich, 1977) は、一般に、グルジェフの観念の多くに関する最良の、もっとも包括的な解説の一つだとみなされている。グルジェフも、この本がウスペンスキーが彼の許で学んでいた当時自分が教えていた観念の正確な解説だと認めていた。私は、明確化のためこの本に何度も立ち戻ってきた。これは易しい本ではないが、熟読・精読に十分に値する。それはグルジェフのさまざまな宇宙論的言説を提示しており、それらは深遠かもしれないし正確かもしれない。が、私にはそのどっちかを言うことはできない。

この本を読むに際しては、ウスペンスキーがグルジェフと決裂したこと、そのため、ウスペンスキーが本文中および副題で正直に指摘しているように、提示されたものは完全な体系ではなく、断片であるということに注意する必要がある。ウスペンスキーは素晴らしく知的であったが、多分第十四章で論じたアンバランスな仕方であったのであり、で、決裂は、彼がもはやグルジェフのワークの感情的側面に対処できなくなった時に起こったのだと私は信じる。この本を読む時は、その過度に

知的なトーンを補正するよう努めるとよい。

ウスベンスキーは、「人間に可能な進化の心理学 *The Psychology of Man's Possible Evolution*」(最新版 New York: Random House, 1981) という、グルジェフのワークへのずっと短い入門書も書いている。「奇蹟を求めて」を読む前に、これを読むことをお勧めする。この二冊に精通したら、ウスベンスキーの「第四の道」：G・I・グルジェフの教えに基づいた講話と質疑応答の記録 *The Fourth Way: A Record of Talks and Answers to Questions Based on the Teaching of G. I. Gurdjieff* (New York: Random House, 1971) を読みたくなるであろう。

グルジェフの観念へのもう一つの簡潔な手引きは、私の「トランスパーソナル心理学 *Transpersonal Psychologies*」(El Cerrito, Calif.: Psychological Processes, 1983) 中のキャサリン・リヨルダン (スピース) による一章である。彼女は後にこの章を拡充させて、「グルジェフ・ワーク *The Gurdjieff Work*」(Berkeley: And/Or Press, 1976) という小著にまとめた。

ジョン・ベネットは一時グルジェフとワークをしていただけではなく、他の心理的・靈的教えの源泉の研究にも携わっていた。彼の本は、グルジェフの観念の単なる繰り返しというよりはむしろ、グルジェフを理解するための知的で誠実な試みとして、私に感銘を与えた。彼の名著「グルジェフ…新世界の創造 *Gurdjieff: Making a New World*」(New York: Harper & Row, 1976) は、グルジェフの観念のいくつかを提示し、それらの歴史的背景とそれらの意味についての推測を組み合わせたものである。

ロバート・ドゥロップの「マスター・ゲーム…ドラッグ体験を超えた高次の意識への道 *The Master Game: Pathways to Higher Consciousness beyond the Drug Experience*」は、一九六〇年代後半のサイケデリック革命を背景にしたグルジェフの観念への有用な入門書であり、通常のグルジェフ本よりも広い

背景を踏まえている。ドゥロップの著作には一貫して普通の人々に対する強い否定的傾向があるので、読み進める際にそれを取り除く必要があるかもしれない。ドゥロップの自伝『戦士の道…やっかいな人生ゲーム *Warrior's Way: The Challenging Life Games*』(New York: Deracone, 1979) を読む時、私は彼の態度の根底にあるものがわかり、人生の途上で我々に襲いかかる恐怖を彼が克服したことに賛嘆の念を覚える。

モリス・ニコルは、グルジェフの観念に掛かり合う前に、カール・ユングの許で訓練を受けた心理学者であった。彼の五巻本『グルジェフとウスペンスキーの教えに関する心理学的注解 *Psychological Commentaries on the Teaching of Gurdjieff and Ouspensky*』(Boston: Shambhala Publications, 1984) は、貴重かつ刺激的である。彼はまた、初期および秘教的キリスト教とグルジェフの観念との関係に関心を抱き、『マーク *The Mark*』(Boston: Shambhala Publications, 1985) と『新しい人間 *The New Man*』(Boston: Shambhala Publications, 1984) の中でそれらの関係についての独創的な考えを提唱した。

マイケル・ワルドバーグの『グルジェフ…その観念へのアプローチ *Gurdjieff: An Approach to His Ideas*』(London: Routledge and Kegan Paul, 1981) は、ケニス・ウォーカーの『グルジェフの教えに関する研究 *A Study of Gurdjieff's Teaching*』(New York: Samuel Weiser, 1974)、ジャン・ウァイスの『覚醒をめざして…グルジェフが残した教えへのアプローチ *Toward Awakening: An Approach to the Teaching Left by Gurdjieff*』(San Francisco: Harper & Row, 1979) 同様、有益で簡潔な入門書である。

グルジェフに関して書かれたあらゆるものを追跡したい読者には、ウォーター・ドリスコルとカリフォルニア・グルジェフ財団による『グルジェフ…注釈付き著書目録 *An Annotated Bibliography*』(New York: Garland Publishing, 1985) が権威ある参照文献である。これは、グルジェフに関する一四六六

を数える英語の文献、五八一点のフランス語文献、その他の言語の種々雑多な文献を網羅した、現在望みうる最高の完璧さを備えた学術的文献集成である。文献の多くはちよつとした記述にすぎないが、実質的に全ての文献が収録されている。著者たちの視点から文献のいくつかは誤解させるものあるいは無価値として評価されているが、これは学問的中立性を期そうとする企てから来ている。

グルジェフの著作

グルジェフは、自分の中心的教えの解説とすることを目論まれた三連作に「一切合切 *All and Everything*」という包括的な題を付けた。その第一書は「ベルゼバブの孫への話 *Beelzebub's Tales to His Grandson*」(New York: Dutton, 1978)と題されている。寓話として書かれたこの本は、非常に高い宇宙的人物／「悪魔」／天使たるベルゼバブが、宇宙が働く仕組み、特にその地球上の人類との関係を孫に説いて聞かせるためにする物語という形式を取っている。

この本を書くことで、グルジェフは、何かのために一生懸命がんばればがんばるほど、それだけそれをよりいっそう正しく認識するという考えに基づいた実験を試みた。彼は一章書き上げると、弟子たちにそれを読んで聞かせるようにした。もし彼らがそれを理解したら、彼はそれをもっと難解にすべく書き直すようにした。これは、グルジェフによって案出された手の込んだ、多音節の言葉であふれた、難解な書物である。後年、グルジェフがこの実験はうまくいかなかった——弟子たちは、その意図的な難解さの故に必ずしもより良い理解を持つことはなかった——と断じたという話を私は聞いたことがある。無理してでもこの本を読破すべきなのかどうか、私には定かではない。グルジェフ・

ワークのいくつかの分派では、この本は、その一語一句が絶対的に真実である聖書のように扱われている。これは、この本をはっきりと理解できない人々に、罪悪感と不適格感を抱かせるという否定的な影響を及ぼす。

連作の第二書「注目すべき人々との出会い *Meetings with Remarkable Men*」(New York: Dutton, 1969) は非常に読みやすい。これはグルジェフの旅のいくつかについての寓話的記述として、面白い小説のようにざっと通読することができるが、しかしより深いレベルも備えている。

連作の第三書「生は、私が存在して、初めて真実になる *Life Is Real Only Then, When "I Am"*」(New York: Dutton, 1982) は非常に挑発的である。これは、グルジェフ・ワークに精通した後で読むことをお勧めする。

「真の世界からの眺め *Views from the Real World*」(New York: Dutton, 1975) は、弟子たちによって回想されたものとしてのグルジェフの講話を集めたものである。

「来るべき善きものの先触れ：現代人への初のアピール *The Herald of Coming Good: First Appeal to Contemporary Humanity*」(New York: Samuel Weiser, 1971) は、グルジェフの実験の一つだが、うまくいきそうもないと断じてほとんど直ちに取りやめにしたものとして、私には印象深い。何よりも歴史的な関心をそそる。

関連図書

もし本書で用いたような題材の提示のスタイルが気に入ったようなら、私はこうした領域ならびに

超心理学や変性意識といった関連した話題について、「ノエティック科学研究所レビュー Review of the Institute of Noetic Sciences」や「ノエティック科学研究所会報 Bulletin of the Institute of Noetic Sciences」で執筆を続けるつもりである。現在（一九八六年）、年会費三十五ドルで同研究所の会員になることができる。私が国内で行う様々な講演やワークショップはこれらの刊行物に発表される。また研究所では、私が四年間刊行してきた季刊のニュースレター「オープン・マインド The Open Mind」ならびに私の書籍やテープを扱っている。研究所の所在地は、475 Gate Five Road, Suite 300, Sausalito, CA 94965; (415) 331-5650である。

私が数年前に設けた「気づき増進訓練グループ」と同様の、覚醒のための他のワーキング・グループを北カリフォルニアに設ける予定があるかどうかという問い合わせをいただいている。現時点では未定であるが、関心がある方は研究所に私宛にご連絡いただきたい。そのようなグループが編成されたら、研究所の刊行物で発表されることになるであろう。

精神／心について私の理解、とりわけさまざまな変性意識状態で発現するものとしての心についての理解に関する私のより正式な科学的説明は、拙著「意識の諸状態 States of Consciousness」で展開されている（元々はDutton社から一九七五年に出版され、現在はPsychological Processesから刊行中）。この本は、心理学者や研究者たちにとって特に興味深いであろう。拙著「変性意識状態 Altered States of Consciousness」(New York: Doubleday, 1971)は、催眠、夢、明晰夢、瞑想、サイケデリック・ドラッグの効果といった話題に関する研究論文集であり、さらに大きな背景を提供している。「トランスパーソナル心理学 Transpersonal Psychologies」(元々はHarper & Row社から出版され、現在はPsychological Processesから刊行中)は、靈的発達に真剣に取り組むための超心理学的背景を展開しており、いく

つかの主要な霊的体系（仏教、ヨーガ、グルジェフ、アリカ・トレーニング、スーフィズム、キリスト教、西洋の魔術的伝統）に固有の心理学に関して数人の権威者たちが解説を試みた数章を含んでいる。これらの本は *Psychological Processes* (Box 37, El Cerrito, CA 94530) から入手できる。第二十三章で言及したミュージカル・ボディーのガイダンス・テープも扱っている。

私が現在個人的探求の中で集中的に取り組んでいる本は、三巻本の「奇跡のコース A Course in Miracles」(Tiburon, Calif.: Foundation for Inner Peace, 1975) である。われわれは皆いつか幼少期の宗教と仲直りしなければならぬとグルジェフは言ったが、「コース」は私にそうするよう強いている。その出所／靈感の源は「キリスト意識」に帰せられるが、これは通常の確認にはなじまないもので、それに帰することは多くの抵抗を呼び起こす可能性がある。しかしながら、その中身は明らかに——より良い用語がないため、あえて使うなら——高次感情センターのレベルから来ている。それはきわめて高度な心理的洗練レベルを表わしている一方、心に直接語りかけてくる。たとえば、

知覚は、心が見たいと望む

どのような心像ヒンダーも作り出すことができる。

このことを忘れないようにしなさい。

このことの中に天国も地獄も存在し、

それを選ぶのはあなたである。

あるいは、

私が自分自身を許し、

自分が誰であるかを思い出した時、

自分が出会うあらゆる人、あらゆるものを私は祝福するだろう。

私は「コース」の理解についてはほんの初心者にすぎず、それを受け入れるのに大きな抵抗を覚える（これは私の無意識的信念について何かを示唆しているのだが）。そのいくつかの側面は本書中の考えの多くに同調し、それらを拡充させる。いくつかは、この時点での私の同調能力を超えている。もしあなたがわれわれのユダヤ・キリスト教的遺産と格闘する覚悟があるなら、「コース」を強くお勧めする。

意識およびトランスパーソナル心理学に関する一般的文献

筆者が一九六九年に『変性意識状態』を出した時、われわれの精神／心がなしうる機能の仕方そのうした強烈で魅惑的で重要な変化についての、科学的志向を持った、信頼できる情報は入手困難であった。私は、変性状態に関する主要な情報源を提供することによって、変性状態が心理学の一分野として正当と認められることに拙著が寄与することを望んでいた。その時以来の進展は非常に励みになったが、私が望んでいたほど大きな進展はなかった。私は拙著『変性意識状態』が十年も経たないうちに時代遅れになると思っていたのだが、しかしそれは今なおこの分野における標準的参考書である。なお多くの問題があるが、われわれが以前より多く知っていることは確かである。

変性意識状態、トランスパーソナル心理学および関連する話題に関する比較的古い文献目録は「変性意識状態」に付されているが、しかしこれは当然ながら一九六〇年代後半までのものしか扱っていない。喜ばしいことに、この分野は現在非常に拡充されているので、本格的に網羅的な文献目録を作成するにはかなりの時間が必要となろう。以下に列挙したのは、一九六〇年代後半以降に刊行された、変性意識状態、トランスパーソナル心理学および関連する領域に関する文献である。これらは私の個人的蔵書となつていゝるものであり、したがつておおむね信頼でき、読む価値があるものとして推奨できるものである。著者別にアルファベット順に列挙してある。かなり専門的な書物の後には (r) を付しておいた。

- Ajaya, Swami. *Psychotherapy East and West. A Unifying Paradigm*. Honesdale, Pa.: Himalayan Publishers, 1984.
- Barber, T. (ed.). *Advances in Altered States of Consciousness and Human Potentialities*, vol. 1. New York: Psychological Dimensions, 1976.
- Cade, C., and Coxhead, N. *The Awakened Mind: Biofeedback and the Development of Higher States of Awareness*. New York: Delacorte, 1979
- Carrington, P. *Freedom in Meditation*. New York: Anchor, 1977
- Castaneda, C. *The Teachings of Don Juan: A Yagui Way of Knowledge*. Berkeley: University of California Press, 1968.
- _____. *Tales of Power*. New York: Simon & Schuster, 1974.
- _____. *A Separate Reality: Further Conversations with Don Juan*. New York: Simon & Schuster, 1971.
- _____. *Journey to Ixtlan: The Lessons of Don Juan*. New York: Simon & Schuster, 1972.
- _____. *The Second Ring of Power*. New York: Simon & Schuster, 1977.

- _____. *The Eagle's Gift*. New York: Simon & Schuster, 1981.
- _____. *The Fire from Within*. New York: Simon & Schuster, 1984.
- Davidson, J., and Davidson, R. (eds.). *The Psychobiology of Consciousness*. New York: Plenum, 1980.
- Davidson, R.; Schwartz, G.; and Shapiro, D. (eds.). *Consciousness and Self-Regulation. Advances in Research and Theory*, vol. 3. New York: Plenum, 1983. (t)
- Deikman, A. *Personal Freedom. On Finding Your Way to the Real World*. New York: Grossman, 1976.
- _____. *The Observing Self: Mysticism and Psychotherapy*. Boston: Beacon Press, 1982.
- Dixon, N. *Subliminal Perception. The Nature of a Controversy*. New York: Macmillan, 1971. (t)
- Dychtwald, K. *Bodymind*. New York: Pantheon, 1977
- Ellwood, R. *Religious and Spiritual Groups in Modern America*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall, 1973.
- Emmons, M. *The Inner Source: A Guide to Meditative Therapy*. San Luis Obispo, Calif.: Impact Publishers, 1978.
- Ferguson, M. *The Aquarian Conspiracy: Personal and Social Transformation in the 1980s*. Los Angeles: J. P. Tarcher, 1980.
- Furst, P. *Hallucinogens and Culture*. San Francisco: Chandler & Sharp, 1976.
- Garfield, P. *Creative Dreaming*. New York: Simon & Schuster, 1974.
- _____. *Pathway to Ecstasy: The Way of the Dream Mandala*. New York: Holt, Rinehart & Winston, 1979.
- Galyean, B. *Mind Sight: Learning through Imaging*. Long Beach, Calif.: Center for Integrative Learning (767 Gladys Ave.), 1983.
- Goleman, D., and Davidson, R. (eds.). *Consciousness: Brain, States of Awareness, and Mysticism*. New York: Harper & Row, 1979.
- Grinspoon, L., and Bakalar, J. *Psychedelic Drugs Reconsidered*. New York: Basic Books, 1979.

- _____. (eds.). *Psychedelic Reflections*. New York: Human Sciences Press, 1983.
- Grof, S. *Realms of the Human Unconscious: Observations from LSD Research*. New York: Viking, 1975.
- _____, and Halifax, J. *The Human Encounter with Death*. New York: Dutton, 1977.
- _____. *LSD Psychotherapy*. Pomona, Calif.: Hunter House, 1980.
- _____, and Grof, C. *Beyond Death: The Gates of Consciousness*. London: Thames & Hudson, 1980.
- Halifax, J. *Shaman: The Wounded Healer*. New York: Crossroad, 1982.
- Hampden-Turner, C. *Maps of the Minds*. New York: Macmillan, 1981.
- Harner, M. *The Way of the Shaman: A Guide to Power and Healing*. San Francisco: Harper & Row, 1980.
- _____. (ed.). *Hallucinogens and Shamanism*. London: Oxford University Press, 1973.
- Hendricks, G., and Weinhold, B. *Transpersonal Approaches to Counseling and Psychotherapy*. Denver: Love Publishing, 1982.
- Hillman, J. *Revisioning Psychology*. New York: Harper & Row, 1975.
- Hoffer, A., and Osmond, H. *The Hallucinogens*. New York: Academic Press, 1967. (t)
- Hoffman, E. *The Way of Splendor: Jewish Mysticism and Modern Psychology*. Boulder: Shambhala, 1981.
- Houston, J. *The Possible Human*. Los Angeles: J. P. Tarcher, 1982.
- John, Da Free. *The Transmission of Doubt: Talks and Essays on the Transcendence of Scientific Materialism through Radical Understanding*. Clearlake, Calif.: Dawn Horse Press, 1984.
- Johnson, D. *Body*. Boston: Beacon, 1983.
- Johnson, W. *Riding the Ox Home: A History of Meditation from Shamanism to Science*. London: Rider, 1982.
- Larsen, S. *The Shaman's Doorway. Opening the Mythic Imagination to Contemporary Consciousness*. New York: Harper & Row, 1976.

- Lee, P.; Ornstein, R.; Galin, D.; Deikman, A.; and Tart, C. *Symposium on Consciousness*. New York: Viking, 1976.
- Leonard, G. *The Transformation: A Guide to the Inevitable Changes in Humankind*. Los Angeles: J. P. Tarcher, 1972.
- Lilly, J. *The Center of the Cyclone. An Autobiography of Inner Space*. New York: Julian Press, 1972.
- Mann, R. *The Light of Consciousness: Explorations in Transpersonal Psychology*. Albany, N.Y.: State University of New York Press, 1984.
- Master, R., and Houston, J. *The Varieties of Psychedelic Experience*. New York: Holt, Rinehart & Winston, 1966.
- Naranjo, C. *The One Quest*. New York: Viking, 1972.
- _____. and Ornstein, R. *On the Psychology of Meditation*. New York: Viking, 1971.
- _____. *The Healing Journey. New Approaches to Consciousness*. New York: Pantheon, 1973.
- Needleman, J. *The New Religions*. New York: Doubleday, 1970.
- _____. and Baker, G. (eds.). *Understanding the New Religions*. New York: Seabury Press, 1978.
- Ornstein, R. *The Psychology of Consciousness*. San Francisco: W. H. Freeman, 1972.
- _____. (ed.). *The Nature of Human Consciousness: A Book of Readings*. New York: Viking, 1973.
- Owens, C. *Zen and the Lady*. New York: Baraka Books, 1979.
- Parker, A. *States of Mind. ESP and Altered States of Consciousness*. New York: Taplinger, 1975.
- Pearce, J. *The Crack in the Cosmic Egg*. New York: Julian Press, 1971.
- _____. *Magical Child: Rediscovering Nature's Plan for Our Children*. New York: Dutton, 1977.
- De Riencourt, A. *The Eye of Shiva: Eastern Mysticism and Science*. New York: Morrow, 1981.
- Ring, K. *Heading toward Omega. In Search of the Meaning of the Near-Death Experience*. New York: Morrow,

1984.

Savary, L.; Berne, P.; and Williams, S. *Dreams and Spiritual Growth: A Christian Approach to Dreamwork*. New York: Paulist Press, 1984.

Schwartz, G., and Shapiro, D. (eds.). *Consciousness and Self-Regulation: Advances in Research*, vol. 1. New York: Plenum, 1976. (t)

Siegel, R., and West L. (eds.). *Hallucinations: Behavior, Experience, and Theory*. New York: Wiley, 1975.

Shapiro, D. *Precision Nirvana*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall, 1978.

_____. *Meditation: Self Regulation Strategy and Altered States of Consciousness*. New York: Aldine, 1980.

Sugarman, A., and Tarter, R. (eds.). *Expanding Dimensions of Consciousness*. New York: Springer, 1978. (t)

Tart, C. *On Being Stoned: A Psychological Study of Marijuana Intoxication*. Palo Alto, Calif.: Science and Behavior Books, 1971.

_____. *States of Consciousness*. El Cerrito, Calif.: Psychological Processes, 1983. (ed.)

_____. *Altered States of Consciousness*. New York: Doubleday, 1971.

_____. (ed.). *Transpersonal Psychologies*. El Cerrito, Calif.: Psychological Processes, 1983.

Taylor, J. *Dream Work. Techniques for Discovering the Creative Power in Dreams*. New York: Paulist Press, 1983.

Tulku, Tarthang (ed.). *Reflections of Mind: Western Psychology Meets Tibetan Buddhism*. Emeryville, Calif.: Dharma Publishing, 1975.

Valle, R., and von Eckartsberg, R. (eds.). *The Metaphors of Consciousness*. New York: Plenum, 1981.

Vaughan, F. *Awakening Intuition*. New York: Anchor, 1979.

Walsh, R., and Vaughan, F. (eds.). *Beyond Ego: Transpersonal Dimensions in Psychology*. Los Angeles: J. P.

- Tarcher, 1980.
- Wavell, S.; Butt, A.; and Epton, N. *Trances*. New York: Dutton, 1967.
- Weil, A. *The Natural Mind: A New Way of Looking at Drugs and Higher Consciousness*. Boston: Houghton Mifflin, 1972.
- White, J. (ed.). *The Highest States of Consciousness*. New York: Doubleday, 1972.
- _____. (ed.). *Frontiers of Consciousness: The Meeting Ground between Inner and Outer Reality*. New York: Julian Press, 1974.
- Wilber, K. *The Spectrum of Consciousness*. Wheaton, Ill.: Quest, 1977
- _____. (ed.). *The Holographic Paradigm and Other Paradoxes. Exploring the Leading Edge of Science*. Boulder: Shambhala, 1982.
- Zinberg, N. (ed.). *Alternate States of Consciousness. Multiple Perspectives on the Study of Consciousness*. New York: Free Press, 1977
- Zukav, G. *The Dancing Wu Li Masters: An Overview of the New Physics*. New York: Morrow, 1979.

補遺B グルジェフ志向グループを見つけるには

この補遺は、本書中のさまざまな観念が十分に興味をそそるものだと思われる、その結果、特にグルジェフ・ワークを教えている発達グループを見つけてワークに取り組みたいと思うようになった人々向けのものである。私は、もちろん、それが個人的および霊的成長の唯一の道だと信じているわけではないが、しかしそれはわれわれの何人かには非常に役に立ちうる強力なシステムである。

読者の手間を省くため、私はそのようなグループの良い郵送先名簿を提供したいところであるが、いくつかの理由のため、それはできない。

第一に、そんなことをすれば、その名簿に載っているグループを私が暗に承認しており、彼らがグルジェフの観念とメソッドを正確かつ実践的に伝授していると示唆することになってしまうだろう。しかしながら、グルジェフの全範囲にわたる観念についての私自身の理解は限られているので、それらを教えているグループの是非を私が断ずることは僭越というものである。

第二に、グルジェフは誰かを教師としての彼の役割の後継者にはっきりと指名しなかったため、グルジェフの観念を正確に教えることは誰にもできないという、説得力のある主張を私は耳にしてきた。多分、グルジェフの観念を教えていると主張しているグループはどれも、せいぜい単に部分的に資格がある、あるいは単なる模倣者とみなされるべきであり、そのどちらも推奨されるべきではない。他方、グルジェフは、人々が自分自身で考え、知覚し、覚醒するように仕向けるためにあいま

さを用いたり、わざと期待を裏切ったりする名人だったので、彼が誰かに「Xは目覚めており、私の正式の後継者である。Xの指示を仰ぎなさい」と書かれた巻き物を公に手渡さなかつたという事実は、大きな利点かもしれない。このはつきりした系譜の欠如は、直接的伝授よりはむしろ、単にグルジェフの観念のいくつかからの直接の靈感を主張するグループでは問題ではない。この種のグループは、それ自体の真価に基づいて評価されなければならない。

第三に、教師に死なれたいかなる発達グループも、第二十一章で論じられたような理由のため、硬直化する危険にさらされる。教師を偶像視し、教師がしたどんなことも微塵も変えようとしない、転移に基づいた態度、グループの社会的構造を維持することによって滴たされなければならない社会的欲求などが、グループを現在に目覚めさせる代りに、過去を繰り返すパターンに押し込める傾向がある。グルジェフの弟子、あるいは弟子の弟子だった人を教師にしているいくつかの発達グループがあちらこちらにある。これは、グループのワークの力を高める伝授の真性性を与えるのだろうか、それともメソッドが硬直化する確率を高めてしまうのだろうか？ 刷新の欠如は、グルジェフの観念の精髓をしっかりと保持していることの徴しるしなのだろうか、それともグルジェフの観念を現代の要求に合わせるのに充分なほど理解していないことの徴しるしであろうか？ 私は、自分が他の人々のためにこうした判断を下すのには不適任だと感じる。

より正統的なグループとのさほど多くの直接的接触を持つことなしに、グルジェフの観念によって「靈感を与えられた」人を指導者に仰ぐグループがある。それらのグループは、師から師への直接的接触を強調する霊的システムの用語を使うなら、「伝授の直系」には属していない。これは、グループが正統派的慣行の硬直化させる影響を免れており、したがってよりダイナミックで生きいきしてい

ることを意味しているのだろうか、それともそのような「グルジェフ・ワーク」は、グルジェフの実際の観念よりはむしろ想像力と不適切な理解により多くを負っているのだろうか？ 長期間活動してきたグループもあれば、活動を始めてから間もないグループもあり、それらについても同じ疑問を投げかけることができる。真摯で「正統的」なグループがあるが、しかしそれらはある程度まで硬直化しているのではないかと私はうすうす感じている。けれども、彼らと真剣にワークに取り組むことによつて、多くを学ぶことができるであろう。グルジェフ・ワークあるいはその他の伝統における私自身の師匠たちは、私の知覚によれば、どれも完璧な存在でもなく、充分に覚醒してもいなかった——事実、非常にはつきりした性格的欠点を持っていた——が、しかし私は彼らからとてつもなく多くを学んだ。また、人々を擗取する方便としてグルジェフの観念と情け容赦ないスタイルを使う、ペテン師によつて率いられているのではないかと思われるグループもある。

理想を言えば、どの成長グループもその成果によつて判断されるべきであろう。例えば、ある大学には堂々たる建物や研究室、偉そうな顔つきの教授やたくさんの図書館、すばらしい目標や計画があるかもしれない。しかし、結局のところ、大学はその建物、外観、計画面、自己評価とかに基づいてではなく、その教授陣と卒業生による実際の学問的および実際の達成に基づいて判断されるのである。われわれは、そのような判断をすることが適任だと社会によつて信じられている、一般的な学問的共同体というものを持っている。何人かの靈的に進歩していると自称している人々がグルジェフ・ワークを秤^{はかり}にかけ、あるいは時代遅れだと言ひ、あるいはきわめて重要だと言っているが、しかしわれわれの社会はそのような事柄において誰にその能力があるかを決定するための一般に容認されたやり方を持つていないので、これらの判断はわれわれにはあまり役に立たないであろう。多くの靈的

伝統に属する人々と会った私自身の体験から言えることは、何人かは確かにより多く目覚め、成熟しており、他の何人かは自己欺瞞のために伝統を利用しているということである。

覚醒し成長すべく努めている者として、自分の判断が歪んでいたり、不適切かもしれないことを認識しつつも、われわれは自分なりのグループ評価を下して、それに自分のエネルギーを注ぎ込むかどうかを決断しなければならない。他人の意見を尊重してもかまわないが、しかし最終的決断は自分で下さなければならない。もしわれわれが適切な判断をし、ある特定のグループとのワークによって成長すれば、結構なことである。もし不適切な判断をし、そのグループとのワークによって成長しなかったり、あるいは傷ついたら、それはそれでかまわない——自分になしうる最善を尽くしたのであり、今度は自分の判断がなぜまずかったかを理解するようにし、それから学ぶべく努めることができるからである。これに関しては、第二十四章の靈的規約書についての議論が助けになるであろう。

以上のように、私は読者を特定のグルジェフ・グループに向かわせることも、特定のグループを推薦することも、逆に特定のグループについて警告を発することもしない。もし特定グループを見つけなければ、あなたのいつもの実際的な知性をお使いになることである。関連図書の出版社あるいは著者に手紙を書き送り、書店の精神世界コーナーの係員に相談し、友人や知人を尋ねて聞いてみればよい。ほとんどの大都市近辺には、少なくとも幾分かはグルジェフの観念を志向しているグループが一つかそこらはあるであろう。いったんこれだと思うグループを見つけたら、本書中になされている示唆を用いて、あなたにふさわしいかどうか確かめてみるとよい。

前に論じたとおり、グループというものは危険なものである。われわれは社会的動物なので、他の人々がわれわれに及ぼす力がいとたやすくわれわれの眠りを深めてしまう可能性がある。彼らは、